

後期栄養を確保し 品質向上!

長岡農業普及指導センター
稲作情報 No. 6

電話：0258-38-2554
E-mail：ngt111440@pref.niigata.lg.jp

今年は梅雨明けが早まり、高温・多照が続いたことから、葉色が薄いほ場が多くなっています。1か月予報（新潟地方気象台、7月14日発表）では、平均気温は高い確率50%となっており、後期栄養の不足による品質への影響が懸念されます。

- コシヒカリの2回目穂肥（出穂期10日前）は必ず施用しましょう。
- 2回目穂肥以降も葉色が薄い場合は、走り穂が出る頃までに追加穂肥の施用を検討しましょう。
- 出穂期25日後まで飽水管理を徹底しましょう。

1 コシヒカリの穂肥による後期栄養確保

- (1) 2回目穂肥は、後期栄養を維持し、登熟向上と品質低下防止のため、出穂期10日前に必ず施用しましょう。
- (2) 高温が予測される場合は、下表を参考に、追加（3回目）の穂肥施用を検討しましょう。

表1 分施肥体系（標準的な地力のほ場）

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 （化学肥料栽培）	出穂期3日前の葉色 SPAD値31以下のとき	出穂期3日前 窒素成分 1kg/10a 以下	化成肥料
特別栽培 （減化学肥料栽培）	出穂期6日前の葉色 SPAD値33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分 1kg/10a	有機100%肥料

表2 全量基肥施肥体系

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 （化学肥料栽培）	出穂期までの葉色 SPAD値32～33を下回ると 予想されるとき	出穂期10日前まで 窒素成分 1kg/10a	化成肥料
特別栽培 （減化学肥料栽培）	出穂期10日前頃の葉色 SPAD値30以下のとき	出穂期10～5日前頃に 窒素成分 2kg/10a	有機100%肥料

2 病虫害対策

- (1) 出穂期が早まり、今後も高温が予想されることから、斑点米カメムシ類の多発生が心配されます。出穂期を確認し、防除適期に合わせた薬剤防除を確実に実施しましょう。薬剤防除前に草刈りを行うことで防除効果を高めることができます。また、水田内雑草の除去を徹底しましょう。
- (2) 葉いもちの発生が各地で確認されています。発生を確認したらただちに防除を実施しましょう（コシヒカリBLで少発生の場合は除く）。
- (3) 穂いもちは予防防除を原則とし、葉いもちの発生程度等から防除回数を決めましょう。

3 今後の水管理

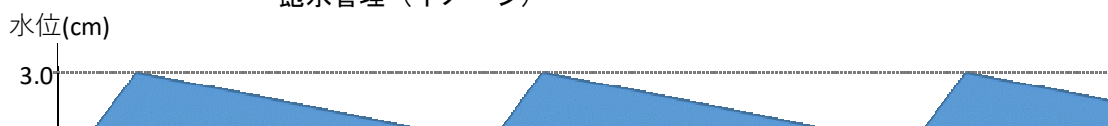
※渇水が懸念されています。かけ流し等を行わずに節水に努め、限りある用水を有効に使いましょう。

※中干し用に切った溝の手直しを行い、速やかなかん水と秋の排水に備えましょう。

※ほ場の見回りを行い、水路や畦畔等からの漏水がないように点検・補修を行ってください。

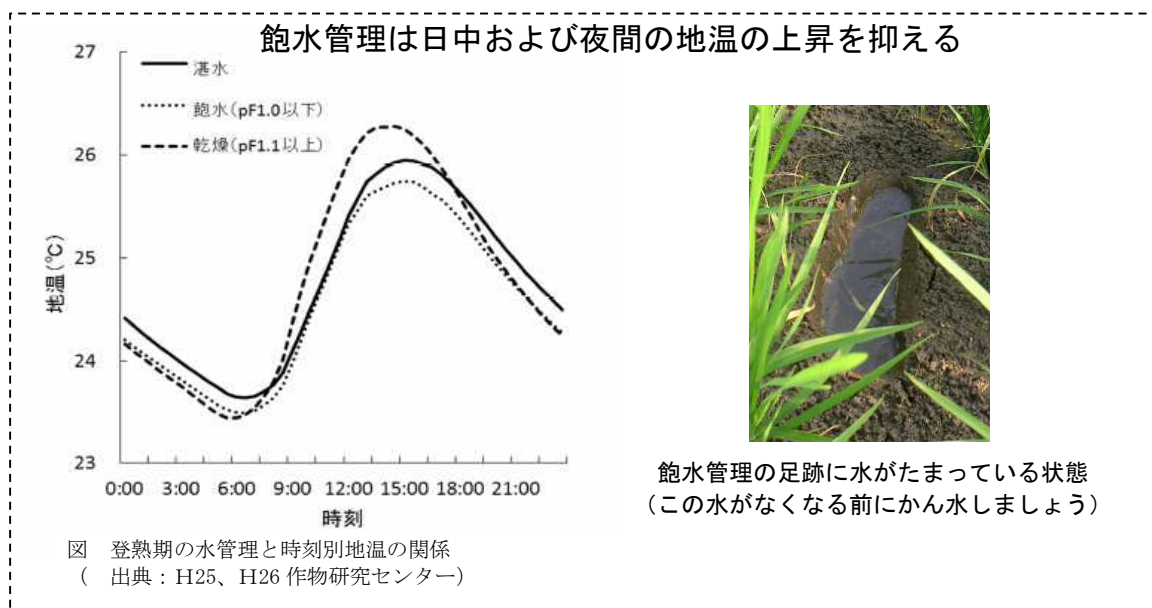
(1) 通常時は飽水管理 ～田面が湿っている状態を保つ！～

飽水管理（イメージ）



飽水管理：水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水し、土壌の湿潤状態を保つこと

- ・ 出穂の12日前ころから出穂期・開花期は、稲が最も水を必要とする時期ですが、常時湛水する必要はありません。飽水管理を徹底し、根の活力維持と上根の発生促進を図るとともに地温の上昇を抑えましょう。



(2) 異常高温時の水管理

- ・ 週間天気予報、台風情報等に注意し、フェーン現象等による異常高温や乾燥が予想される場合には、地域の用水計画に応じて、早めの湛水に努めましょう。
- ・ フェーン通過後は長期間の湛水は避け、飽水管理へ移行しましょう。
- ・ 各地域で、実施可能な用水の効果的・効率的な活用方法を、あらかじめ検討しておきましょう。

・ 農作業事故に注意しましょう。特に草刈り作業は、周囲に気を配ってください。
・ こまめな水分補給や休憩など、熱中症防止対策を徹底しましょう。